事業報告　令和６年度　教育事業

タイニーキャンプ

令和６年 12 月 14 日（土）～15 日（日）
【対　象】小学１・２年生
【場　所】国立信州高遠青少年自然の家

１．趣旨

小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して、野外活動を身近に感じてもらうとともに、感性・自主性・協調性を育む機会とする。

２．主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立信州高遠青少年自然の家

3．活動日程

12月14日（土）		12月15日（日）	
10：30	受付開始	6：30	起床
11：00	開会式	7：00	朝のつどい
11：15	①仲間づくりゲーム	7：20	朝食（食堂バイキング）
12：00	昼食（食堂バイキング）	8：00	荷物整理・清掃、散策
13：00	②冬の森探検　③クリスマスリース作り	9：30	⑤クリスマスパーティをしよう！（調理体験）
17：00	夕べのつどい		
17：20	夕食（食堂バイキング）	13：45	閉会式
19：00	④星空観察	14：00	解散
20：00	入浴・就寝準備		
21：00	就寝準備・就寝		

４．参加者

小学１・２年生３１名（男 17 名/女１４名）

５．企画運営のポイント

・冬ならではの寒さを楽しみ、冬の自然を味わえるような活動を企画した。具体的には、雪の残る森の中を歩き、雪遊びをしたり、霜柱や凍った植物を発見したり、動物の足跡を見つけられるようにしたことや、冬の澄んだ夜空で 300mm の天体望遠鏡で月や木星の天体観測を行ったことである。

・事業冒頭でキャンプ中の約束事を伝えるとともに、「がんばりカード」にて子どもたち自身にキャンプ中の目標を立てさせプログラム毎に振り返る機会をつくることで、自主性を育むしかけとした。

・クリスマスパーティをテーマに据え、その準備（体験プログラム）をして自分たちでパーティを作り上げるという設定をつくることで、子どもたちが活動に目的意識をもち、仲間同士協力し合う雰囲気が出来上がるように計画した。

・ボランティアの資質向上を図るために、初めて参加するボランティアと経験数の多いボランティアを組ませることで、それぞれの立場から課題をもって事業に取り組めるようにした。

６．参加者の声（聞き取りアンケート及び保護者アンケートより抜粋）

・お父さん、お母さんがいないけど１人で頑張って歩いた。（参加者）

・天体観測で月のクレーターを見られたことがキレイで楽しかった。（参加者）

・リース作りが１番楽しかった、リースに乗せるのが楽しかったと話してくれました。クリスマスケーキやピザ作りも楽しくて美味しかったと大喜びでした。どれも楽しかったと話している姿は自信に満ち溢れていて、成長を感じました。（保護者）

・引っ込み思案で人見知りの娘が、自分から他の子に声をかけてお友達になれたと嬉しそうに教えてくれました。別れの際にも、お友達のところに駆け寄って名前を呼び、手を振っていて、びっくりしました。（保護者）

・集団が苦手なので心配していましたが、少人数制の班でスタッフさんがしっかり見てくれたおかげで、困り事ゼロ！と大満足で帰ってきました。自分で行くと決めて、準備・用意したものが足りて、達成感を得られる体験ものが沢山あって、１つ１つが自信に繋がったと思います。（保護者）

７．活動の様子

①仲間づくりゲーム

②冬の森探検

③クリスマスリース作り

④星空観察

⑤クリスマスパーティをしよう！

８．成果と課題

(1)保護者アンケート結果　事後アンケート回収 28 名（回収率 90%）

タイニーキャンプ全体を通して	満　足　：27 名	96%
	やや満足：１名	4%
	やや不満：０名	０%
	やや不満：０名	０%

(2)成果と課題（○･･･成果、●･･･課題）

○早朝に雪が降るも、日中～夜は晴天という最高の天候に恵まれ、雪の残る森の中を歩いたり、雪遊びをしたり、天体望遠鏡で月や木星を観測したり、自然の家だからこそできる自然体験を提供することができた。

○クリスマスリースづくりでは、同じ素材の組み合わせでも１つとして同じものはなく、子どもたちの豊かな発想が見られた。また、会場に飾り付けることがお互いの作品を見合う機会となり、その際、子どもの中から作品同士の違いを楽しむ発言が聞こえてきた。このことから、感性を育む機会とすることができたと考える。

○子どもたちが仲間と協力して活動に取り組む姿が随所で見られた。アンケートにて、参加者全員から「班の友だちと仲良くできた」「新しい友だちができた」「キャンプが楽しかった」という回答を得たことからも、協調性を育む機会にできたと考える。

●安全管理で課題が残った。池に落ちる子を出してしまい、幸いけがはなかったが、事故につながりかねない出来事であった。また、グルーガンで指先をやけどした子が複数出た。事業前にスタッフ全員でフィールドの危険箇所チェックを行ったり、参加者に向けてセーフティトークをしたりしたが、スタッフ１人１人の安全管理意識をより高める必要性を感じた。

●今回のキャンプは３０名募集に対し９１名の申込をいただいた。需要に合った人数・実施回数を検討したい。